観光・地域振興

馬と共に歩んだ開拓の心を今に繋ぐ

十勝地域／別海地域

馬文化と馬産業を地域振興の柱に

事業の概要

１．十勝地域

北海道の十勝地方は、農業が盛んであると共に自然、温泉資源、おいしい食べ物などの資源が豊かで、道内外から年間 800 万人ほどの観光客が訪れており（北海道観光入込客数調査より）、観光関連産業などのサービス業が地域の重要な産業となっている。

そのような中、帯広市産業振興ビジョン（H21 策定）の中で、重点プロジェクトの一つとして、「ばんえい競馬を主体とした市内の観光資源を活かし、飲食、農畜産物、土産品販売など魅力ある複合的な観光拠点施設の整備を進める」としており、公営競技である「ばんえい競馬」を観光資源としても位置付けている。

ばんえい十勝

「ばんえい競馬」は、体重１ｔを超えるばん馬（輓馬）が鉄そりを引き、200ｍの直線コースで力とスピードを競う、世界で唯一の競馬である。北海道開拓当時の厳しい農耕の合間に、農民達の楽しみ、わが馬自慢のために馬の力を試した「お祭りばん馬」が発展したもので、北海道開拓民とともに歩んだ馬たちの姿を現代に伝えるものであり、平成 16 年には北海道開拓の歴史と馬文化を伝える「北海道遺産」として選定された。

平成 18 年に、売上げ減少による累積赤字を理由に、北見、岩見沢、旭川が撤退し、帯広市の単独開催となった。帯広でも存廃が大きな問題となったが、競馬関係者だけでなく、市民も一丸となって存続に向けてさまざまな活動を行い、継続が決定された。

十勝地方は夏に観光客が多い傾向にあるが、ばんえい競馬は冬期間も開催するとともに、ナイター競馬を開催するなど、観光客が訪れやすい工夫をしている。また、競馬場内ではバックヤードツアーや朝調教ツアー、馬のふれあい広場など、競馬を積極的に観光に利用する体験型メニューが提供されており、多くの観光客が来場している。

ばんえい競馬の広報と観戦の様子

平成 22 年 8 月には競馬場敷地内に観光交流拠点施設「とかちむら」がオープンし、十勝地方の食材や食文化を満喫できるお食事から、十勝の広大な大地でとれた野菜や畜産物などのお土産まで満喫でき、30 万人近い来場者を数えている。ばんえい競馬との相乗効果によって更に多くの地域住民や観光客が訪れ、市内で最も集客力のある観光スポットになっている。

とかち村の外観

また、競馬場の敷地内には「馬の資料館」がある。この資料館は、十勝の開拓時代に活躍した農耕馬の資料や農機具などが数多く展示され、地域の歴史や、馬と人の歴史、馬事文化を学べる場になっているとともに、十勝の観光情報を調べられる観光情報センターも併設しており、観光の拠点ともなっている。

また、ばんえい競馬は映画の舞台となったり、テレビ番組や雑誌にとりあげられたり、観光イベント紹介などにも後押しとなり、帯広・十勝地域のＰＲに大いに寄与している。

馬の堆肥を利用した農産物の生産
～地域循環型農業

帯広のばんえい競馬場は、約 600 頭の馬が関わる一大「馬糞発生地」ともいえる。厩肥の処理コストや周辺住民の生活環境への配慮を解決するため自然循環型農業が実現している。

帯広地域は米の生産には不適であり、麦の作付けが中心である。麦わらは馬の敷料として最適である。その馬の堆肥を利用して、」世界的に評価の高い農産物が十勝から生まれている。それがマッシュルーム（とかちマッシュ）である。

マッシュルームは、元来は発酵させた馬の堆肥に菌を植え付けて屋内で栽培するが、今日では大規模栽培に際しては藁などに米ぬかや化学肥料などを加えて発酵させた人工堆肥（マッシュルームコンポスト）などが使われることが多い。十勝地方の寒冷な気候や豊富な清流もマッシュルーム栽培に好適であり、非常に高い品質のマッシュルームが栽培されている。

マッシュルーム栽培後の培地も、完熟した良質の有機肥料として近隣の畑へ還元されており、まさに馬は地域循環型農業の中心的な存在といえる。

地域循環型農業としてのマッシュルーム栽培

＜とかちマッシュ®ができるまで＞

（農業法人「鎌田きのこ」㈱ ／帯広市川西町基線 50 番 提供協力）

帯広畜産大学「ちくだい馬フォーラム」

帯広では、馬に関する教育研究の成果を広く社会に向けて発進するために、帯広畜産大学が中心になって「ちくだい馬フォーラム」を開催している。学生、教職員、協力団体が一体となって業を遂行している。帯広市を代表するイベントの一つになっており、開催期間中は親子連れなどの多くの市民がキャンパスを訪れている。ちくだい馬フォーラムの詳細は本事例集の「帯広畜産大学」で述べられているので参照されたい。

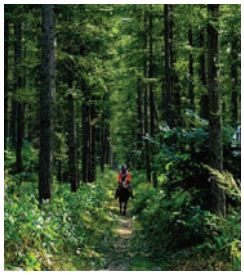
ちくだい馬フォーラムの様子

その他

農業や自然と観光を結びつける取り組みの一つとして、グリーンツーリズムや体験型レジャーも推進している。鹿追町では、林道や農道だった道を整備し全長 125.5km の「馬の道」を整備し、車などの心配なく自然を満喫しながら乗馬できる道を観光資源としている。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す国土交通省の施策であるシーニックバイウェイにもなっている。エンデュランス馬術の全国大会などの誘致も行っている。

また、音更町では国内の公的機関で唯一、農用馬の改良・繁殖を手掛ける（独）家畜改良センター十勝牧場があり、冬期の馬追い運動は全国的にも知られている。

このように、十勝地域では、馬に関する観光資源が豊富であると共に、馬と観光を上手く結びつけた取り組みが行われている。



美しく雄大な景観を活かした「馬の道」

2. 別海町

別海町（べっかいちょう）は日本で最も規模の大きい酪農の町として知られており、人口 15,800 人に対し、乳牛・肉牛あわせて 11 万 3,000 頭が飼養されている。現在は牛が中心となっているが、歴史的に馬は開拓や農業の発展に大黒柱として支えてきた貢献があり、住民にとって馬は現在も大切な存在となっている。

町役場（農務課）が主催となって開催される収穫祭的催事である「別海町産業祭」において、馬事競技大会は行われている。産業祭は平成 28 年で第 47 回を迎え、馬事大会も 1970 年代から継続されている。地域の産業基盤である農業を支え、家族同然に生活を共にしてきた農耕馬への敬愛と、生産と育成振興を推進してきた競技大会を地域遺産として来来へと継承しようとするものである。愛馬を持ち寄り、不断の努力、練習成果を競いながら生産者同士の交流を深め、また 郷土の発展を築いてきたばんえい・馬文化を、多くの人々に楽しみながら知ってもらうことを目的としている。こうした地域の活動が連綿となされていることは馬文化の継承としても貴重な存在である。

別海町産業祭／馬事競技大会の広報

ポニー、北海道和種馬、トロッターなどによる競走が 15 レースある。速歩競走など、現在ではなかなかみることのできない競走もある。ばんえい競技（20 レース）では、ポニー(50kg)から重種馬（900kg）までのクラス別、年齢別で行われる。

若手育成を目的に、中学生以下の子ども騎手の種目がある。各決勝での優勝馬には、表彰と協賛賞品が授与される。

背景（地域連携、展望等）

馬は北海道開拓の暮らしに根付いており、現代でも人々の中に馬に対する特別な想いが受け継がれている。同時に、馬に関する技術や文化なども受け継がれてきている。このようなかけがえのない財産を未来につなげ、発展させるためには、生産者が意欲をもって馬を生産するようその振興が重要と考える。

生産者の高齢化・後継者不足とともに、馬生産の所得確保は重要な課題である。

観光での馬の利活用は馬の価値を高めることにも繋がると期待され、馬産地としても重要であると考えられる。また、観光地としての魅力と日本独自の馬事文化を PR することにより、インバウンドなど海外観光客へむけた取り組みも今後期待される。

開拓時代の馬耕風景（写真提供：北海道開拓記念館）

○とかちむら　〒080-0023 北海道帯広市西 13 条南 8 丁目 1 番地　(URL)http://tokachimura.jp/

○帯広畜産大学　〒080-8555　帯広市稲田町西 2 線 11 番地　(URL)http://www.obihiro.ac.jp/

○別海町　〒086-0205 北海道野付郡別海町別海常盤町 280 番地　(URL)http://betsukai.jp/